

「生産性」って？毎日使う言葉だけど、本質を理解して使ったり、聞いたりしているかな？

今こそ
知りたいDX /
vol.18
(Ver2.0)

どの企業も組織も、そして個人も 目指している「生産性向上」！！ ビジネスシーンで常に使われるNO.1ビッグワードですね。

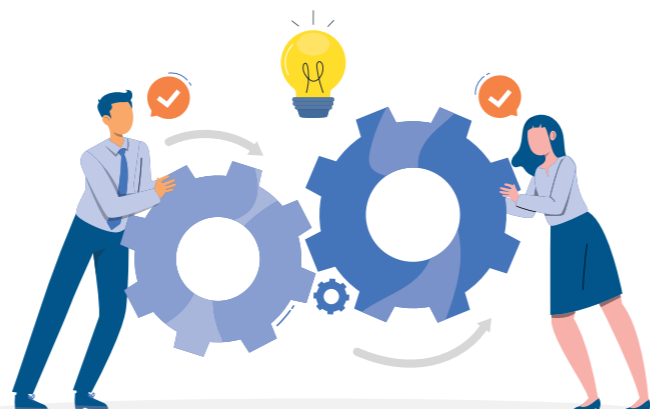


目的は「生産性UP!」「DXは手段!」本来の目的である、生産性向上について、基本に立ち返り、整理しましょう。

＼ そもそも生産性って？しっかり調べたことなかったの、辞書で調べてみました。 /

【生産性:せいさんせい】

どれだけ効率よく生産されるかということ。
生産のために使われた生産要素の量と、生産された生産物の量との割合で表される。労働者1人あたりの、あるいは一定の労働時間における生産量で表す労働生産性、土地の単位面積あたりの生産量で表す土地生産性などがある。言葉先行の生産性は危険!!しっかり定義と例、本質を叩き込んでいきましょう!もう少しビジネスライクに説明します。



生産性とは、アウトプット(産出量)をインプット(投入量)で割ったもの



具体的な例を挙げてみましょう!

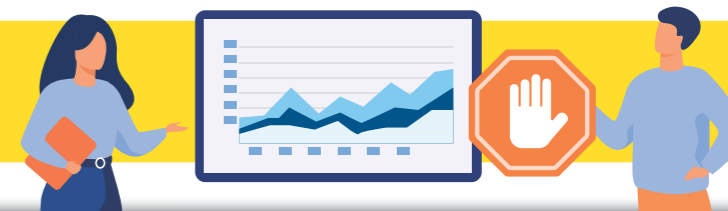
◎まずは生産性が上がっているケース

<p>1 インプットを減らし、アウトプットが同じ場合</p> <p>IN DOWN OUT KEEP</p>	<p>100個の製品を作るのに10時間かかる。改善を行い、同じ100個の製品を8時間で作れるようになった!インプット(時間)が減少し、アウトプット(製品数)が同じ!つまり、生産性が向上した!</p>	<p>アウトプット 同</p> <p>インプット 減</p> <p>= 向上 生産性</p>
<p>2 インプットが同じで、アウトプットが増える場合</p> <p>IN KEEP OUT UP</p>	<p>10時間で100個の製品を作っていた工場。技術革新により10時間で120個の製品を作れるようになった!インプット(時間)は同じ!ただアウトプット(製品数)は増加!生産性が向上した!</p>	<p>アウトプット 増</p> <p>インプット 同</p> <p>= 向上 生産性</p>
<p>3 インプットを減らし、アウトプットが増える場合</p> <p>IN DOWN OUT UP</p>	<p>10時間で100個の製品を作っていた工場。8時間で120個の製品を作れるようになった!改善+革新!インプット(時間)が減少!アウトプット(製品数)が増加!大幅な生産性向上!!</p>	<p>アウトプット 増</p> <p>インプット 減</p> <p>= 大幅向上 生産性</p>

◎次は生産性が下がっているケース

<p>1 インプットが同じで、アウトプットが減る場合</p> <p>IN KEEP OUT DOWN</p>	<p>10時間で100個の製品を作っていた。しかし...何らかの理由で同じ10時間で80個しか作れなくなった...インプット(時間)は同じ...アウトプット(製品数)が減少...生産性が低下...</p>	<p>アウトプット 減</p> <p>インプット 同</p> <p>= 低下 生産性</p>
<p>2 インプットが増えて、アウトプットが同じ場合</p> <p>IN UP OUT KEEP</p>	<p>以前は10時間で100個の製品を作っていた...が...効率が悪化して12時間かかるようになった...ただ...作れる製品数は同じ100個のまま...インプット(時間)が増加...アウトプット(製品数)が変わらない...生産性が低下...</p>	<p>アウトプット 同</p> <p>インプット 増</p> <p>= 低下 生産性</p>
<p>3 インプットが増えて、アウトプットが減る場合</p> <p>IN UP OUT DOWN</p>	<p>10時間で100個の製品を作っていた...12時間かかるようになり...しかも作れる製品数が80個に減少した...インプット(時間)が増加...アウトプット(製品数)が減少...大幅な生産性の低下...大ダメージ...なぜ??</p>	<p>アウトプット 減</p> <p>インプット 増</p> <p>= 大幅低下 生産性</p>

言葉で言う「生産性」をより「具体的に事例と数字」でご理解いただけましたか？
生産性という「言葉」だけが飛び交うのは危険です!



オススメの書籍!!

少し前の書籍ですが、ホントにわかりやすく、目から鱗です!

「生産性」伊賀泰代 著 (出版社:ダイヤモンド社/2016年)

かつて日本企業は生産現場での高い生産性を誇ったが、ホワイトカラーの生産性が圧倒的に低く世界から取り残された原因となっている。生産性はイノベーションの源泉でもあり、画期的なビジネスモデルを生み出すカギなのだ。本書では、マッキンゼーの元人材育成マネジャーが、いかに組織と人材の生産性を上げるかを紹介する。

ダイヤモンド社下記URLより引用
<https://www.diamond.co.jp/book/9784478101575.html>



生産性を上げる4つの方法 「生産性/伊賀泰代著」を参考にしました。



革新と改善の定義と事例

◎革新(イノベーション)

定義 新しいアイデア、製品、サービス、またはプロセスを導入することで、従来の方法や製品を大きく変えること。ディスラプター(破壊的イノベーション)の出現も革新。既存市場や業界構造を根本から脅かす、技術やビジネスモデルを創りだす。

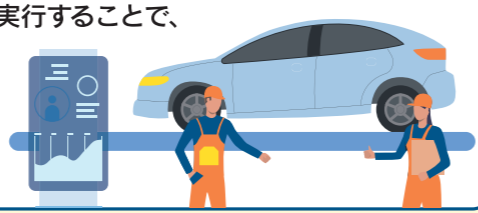
事例 スマートフォンの登場。従来の携帯電話に比べて、スマートフォンはインターネットへのアクセス、アプリケーションの活用、電子マネーなど、多くの新しい機能を提供し、通信や情報の取得方法、生活そのものを劇的に変えた。



◎改善(カイゼン)

定義 既存のプロセスや製品を少しずつ改良し、効率や品質を向上させること。継続的なプロセスであり、小さな変更を積み重ねることで大きな成果を生むことを目指す。

事例 製造業における生産ラインの効率化。トヨタ自動車が入力した、有名な「カイゼン」手法では、従業員が日々の業務の中で小さな改善点を見つけ出し、実行することで、生産効率や品質を向上させている。



人の成長=生産性の向上

働く人の「成長」とは生産性の向上に他なりません!



どうですか?!まさに生産性の向上ですよ!この図のような考え方で、生産性向上の施策やチェックをしてみたらいかがですか?



最後に! 目的は仕事、業務、企業の生産性向上です。デジタル化、ICTはもとよりDXも手段やツールです!今回は、「生産性の本質」をもう一度しっかり整理してみました。お役に立てたのなら、何よりです。

お客様の成長のため、私たちがDX推進パートナーとなり、寄り添い続けます!

